

事業名	担当
たいはくキッズリーダー育成事業 「ぼくらの長町黄援隊！」	太白区中央市民センター
1 事業の目標（ねらい）	
①地域への愛着・関心の高揚を図る。 ②地域づくり・ボランティア活動の体験機会を創出する。 ③参加児童同士の交流や地域を構成する団体や人々との交流を深める。 ④参加児童の成長と地域のために貢献できる人材の育成を図る。	
2 事業内容（手法）	
(1) 対象者 小学校4年生～6年生 (2) 登録者数 15名（内訳：小4・3名 小5・4名 小6・8名） (3) 募集方法 6月に長町エリアの小学校（長町小，長町南小，東長町小，大野田小，富沢小，八本松小）の4～6年生を対象に，事業への参加募集チラシを配布 (4) 活動内容 令和3年度の7月から活動が始まり、年間を通して月に1回程度活動を実施（全8回） 基本的な枠組みは太白区中央市民センターで定めつつ、活動内容は、参加児童の意見を伺いながら、仙台89ERSスタッフと太白区中央市民センター職員とで協議、決定する。 【当初活動計画のイメージ】 ①オリエンテーション ②仙台89ERSと長町を応援するポスターや新聞の制作・掲示・配布 ③仙台89ERS関係者や長町商店街の方々との交流 ④「ぼくらの長町黄援隊！」の活動紹介 ⑤仙台89ERSホームゲームでのボランティアスタッフ活動 ⑥活動のまとめ (5) 広報 ・活動紹介チラシの制作と配布 ・令和3年度仙台市市民センター成果報告会での成果発表 ・太白区中央市民センターHP（太中調査団）への掲載	
3 新型コロナウイルスによる影響	
令和3年8月に選手を取材して、新聞にまとめて参加校へ配布したり、仙台89ERSの応援ポスターを長町町内会に配布したりして事業の活動報告をする予定だったができなかった。また、仙台89ERSホームゲーム戦での活動計画を立てる時間も確保することがあまりできなかった。 ※代替活動として、8月に仙台89ERSの提案によりプロ選手とのオンライン交流会を開催するなど、参加児童のモチベーションが落ちることのないように工夫した。	
4 令和3年度の実績・予定	
7月 活動①（はじめの会・仙台89ERSと長町を応援するポスター制作） 8月 活動②（選手とのオンライン交流会・選手への手紙作成、送付） 9月 活動③（参加校への活動成果報告チラシの配布・長町商店街へのポスター掲示） 11月 活動④（応援フラッグのデザイン作成） 活動⑤（仙台89ERSホームゲーム戦での応援フラッグによる寄せ書き活動） 12月 活動⑥（仙台89ERSホームゲーム戦でのスタッフ体験活動） 2月 活動⑦（仙台89ERSホームゲーム戦でのハーフタイム演出，エスコートスタッフ体験） 活動⑧（おわりの会・活動の振り返り）	

5 これまでの経緯（成果）
平成23年からの第1期は、「食を活かした仲間づくり」をテーマに、食を通して様々な方々とのつながりを創出するというものであった。第2期となる平成26年度からは、各地区の市民センターと共催でエフエムたいはくキッズ情報局として実施するに至った。平成28年度から当該事業の地区館への事業移管に取り組んだことにより、新たな子ども事業として「見つける！伝える！ヒロセ川」広瀬川事業を企画・実施した。しかし、参加児童が少なく、事業の発展性が見込めないことから、新たな事業を検討するに至り、子どもが興味・関心を持ち自体的、継続的な地域づくり活動への参画が期待できる子どもたちによる「バスケットの長町」づくりに取り組むこととなった。
6 課題・改善点（評価）
新型コロナの影響もあり、地域の人々や団体との交流や地域を意識した活動が十分に実施できていなかったため、参加した子ども達が地域の課題を自ら見つけ、行動するまでには至らなかった。今後は、仙台89ERSと連携しながら長町エリアで子どもたちが地域に貢献できることをさらに考えていく必要がある。また、継続した事業にすることで、今年度の実績を活かした活動を展開していくことも検討していきたい。
7 今後の展開・方向性
2年目（令和4年度） ・仙台89ERSとの継続的な関係づくり ・参加児童の拡大の模索 ・仙台89ERSと協働して地域に根差した課題を探るテーマや計画を設定する。そして、当該テーマをもとに、子どもたち自身が行動できる活動内容を検討し、実践する。 ・活動内容を発信する方法（新聞や掲示、SNSの活用）を検討し、その効果を検証できる方法を検討していく。